

米国における学童の肥満は幼児期に始まる

米国では児童の肥満の発現率が増加していることが言われているが、その発現率についてはほとんど知られていない。そこで、本研究では米国の小学生の肥満発現率について報告された。

米国で 1998 年に幼稚園児であった 7,738 人を対象に、1998 年から 2007 年の間に身長および体重を 7 回計測し、毎年の肥満発現率を調べた。

その結果、7,738 人中、6,807 人が試験開始時に肥満ではなかった。幼稚園入園時に（平均年齢 5.6 歳）12.4%が肥満、14.9%が太り過ぎであったが、8 年生（平均年齢 14.1 歳）では 20.8%が肥満、17.0%が太り過ぎであった。年間の肥満発現率は幼稚園時代には 5.4%であったのが、5 年生から 8 年生では 1.7%に減少した。5 歳の時点で肥満であった者は、標準体重であった者よりも後に肥満になる率が 4 倍高かった（31.8%対 7.9%）。5 歳から 14 歳の間に肥満となった者は半数以上が試験開始時に太り過ぎであった。したがって、5 歳から 14 歳の学童の肥満は、幼稚園入園時から始まっていたことが示された。

出典：New England Journal of Medicine. 2014; 370: 403-411